

ExTEND2005 における国際シンポジウムについて

環境安全課

1. シンポジウムの目的及び留意点

一般向けプログラム

一般市民へのわかりやすい情報提供を目的とする

- ・ 情報の内容（テーマ）については一般市民のニーズにあったものとし、わかりやすいメッセージになるよう心がける。
- ・ シンポジウム後の会場アンケート等により受け手側の理解について把握する。
- ・ 一般市民が参加しやすいように休日開催とする。

専門家向けプログラム

国内外の専門家による最先端の研究・取組についての議論を通じ
情報共有・意見交換を図ることを目的とする

- ・ 最先端の研究や取組をテーマとして扱う。まだ評価の定まっていない内容も含める。
- ・ 国際協力関係事業の中で二国間共同研究/二国間協力と同等に位置づけ、今後は国際セミナー/ワークショップのような形への発展を目指す。
- ・ 専門家向けプログラムで議論された内容のうち、分かりやすい情報提供が可能となったものは、一般向けプログラムにおけるテーマとして扱うことを考慮する。

2. プログラム検討会にかわる体制について

SPEED'98 における取組体制の下では、国際シンポジウムプログラムについては、「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」プログラム検討会において議論してきた。ExTEND 2005 における取組体制の下では、一般向けプログラムと専門家向けプログラムを分離し下記のように進めていく。

一般向けプログラム

- ・リスクコミュニケーション推進検討会において議論した上で、化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会へ報告する。
- ・リスクコミュニケーションの観点から、情報の内容/情報の発信方法/情報の受け手の反応といったことを議論する。
- ・他のリスクコミュニケーション推進事業（ホームページ作成事業等）との連携を図る。

専門家向けプログラム

- ・国際協力関係事業の中に位置づけ、その内容は化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会へ報告する。
- ・シンポジウムにおける発表内容には ExTEND 2005 事業内の基盤的研究の内容等も含むが、これらの研究内容は各検討会に報告され評価をうけるものである。ただし、シンポジウムでの発表内容は ExTEND 2005 事業内の研究内容に限るものではない。

3 .第 8 回化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウムについて(案)

一般向けプログラム

12月4日(日)

於：沖縄ハーバービューホテル

14:00-14:30 開会式

14:30-16:00 一般向けパネルディスカッション

「内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか？」

コーディネーター 北野大 (淑徳大学)

パネリスト 須之部友基 (千葉県立中央博物館)

崎田裕子 (ジャーナリスト・環境カウンセラー) 等

* 12月4日(日): スタディビジット：沖縄美ら海水族館(本部町)

専門家向けプログラム
各セッション3 演者 135 分
(各発表 30 分 + 質疑 10 分 総合質疑・指定発言 15 分)

12月5日(月)・6日(火) 9:00-17:45
於：沖縄コンベンションセンター

12月5日(月)

セッション1 疫学研究における問題点

コーディネーター 遠山千春 (東京大学)

- ・山本精一郎 (国立がんセンター)
- ・David Bellinger (Harvard Medical School, USA)
- ・Brenda Eskenazi (University of California, USA)

セッション2 リスクコミュニケーション：現状と課題

コーディネーター 内山巖雄 (京都大学)

- ・William Leiss (University of Calgary, Canada)
- ・吉川肇子 (慶應義塾大学)
- ・Peter Wiedemann (Federal Research Center Juelich, Germany)

セッション3 群集レベルまたは生態系レベルでの人間影響評価

コーディネーター 花里孝幸 (信州大学)

- ・Charles Tyler (Exeter University, UK)
- ・安間繁樹 (農学博士)
- ・花里孝幸

12月6日(火)

セッション4 内分泌かく乱作用解明の新たな切り口

コーディネーター 渡邊肇 (岡崎統合バイオサイエンスセンター)

- ・徳田雅明 (香川大学)
- ・Sean Kennedy (National Wildlife Research Center, Canada)
- ・渡邊肇

セッション5 内分泌かく乱作用に関する試験法開発

コーディネーター 井口泰泉（岡崎統合バイオサイエンスセンター）

- ・ Thomas H. Hutchinson (AstraZeneca R&D, UK)
- ・ Drew Wagner (OECD EDTA secretariat)
- ・ Anne Gourmelon (OECD VMG-eco secretariat)

セッション6 化学物質のリスク評価に関する最近の動向

コーディネーター 白石寛明（国立環境研究所）

- ・ 化学物質審査室長（環境省）
- ・ Mike Roberts（英国 Defra） 等

指定発言：岩本公宏（日本化学工業協会環境安全委員会エンドクリンWG主査、三井化学）

第8回 化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム

第1日目 12/4(日) 一般向けプログラム

- ・パネル展示 EXTEND2005 の内容をパネルにて展示
- ・一般向けパネルディスカッション

一般向けパネルディスカッションについて

《概要》

タイトル 「内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか？」

パネルディスカッションの内容

環境省は今年、『EXTEND2005』と題して、化学物質の内分泌かく乱作用に関する、新たな取組を始めました。その重要な柱の一つとしているのが、「野生生物の観察」です。

野生生物の形態や生息数などを普段から把握していなければ生態系の異変も、また、内分泌かく乱作用の影響も、正確に突き止められないからです。

今回のパネルディスカッションでは「野生生物にどんな変化が起きているのか?」、「どんな物質が内分泌かく乱作用を持っているのか?」について、最新の報告をもとに話し合い、さらに、「どうすれば生態系を守ることができるのか?」について提言していきます。

コーディネーター

北野大 (淑徳大学教授)

パネリスト

須之部友基 (千葉県立中央博物館)

崎田裕子 (ジャーナリスト・環境カウンセラー)

他

構成内容

第一部 野生生物に起きている様々な変化

野生生物研究者、自然保護ボランティア活動家などからの報告を受けて議論

第二部 内分泌かく乱作用を持つ様々な物質

化学者、薬学者、生物学者などからの報告を受けて議論

第三部 提言

～内分泌かく乱作用から生態系をどう守っていくか?～